

老年看護学実習

目 的

老年期にある対象の発達段階と加齢変化および健康障害による問題を把握し、その人らしく生活できるよう個別的な看護を実践できる能力を養う。

目 標

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と、生活史や老いの現れ方および健康の段階から対象を理解できる。
2. 加齢変化と疾病および生活習慣から生じる健康障害の複雑性を理解し、そのレベルに応じた援助ができる。
3. 老年期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。
4. 対象の多様な生活の場におけるソーシャルサポートの必要性と支援が理解できる。
5. 高齢者を支える看護チームの一員として、自覚と責任のある行動がとれる。

老年看護学実習 I

目的

老年期にある対象の発達段階と特徴を知り、加齢や疾患が身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解し、健康障害に応じた看護の実際を学ぶ。

目標

1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
2. 対象の健康障害の複雑さ多様性を理解し、健康障害に応じた援助ができる。
3. 対象の生活史を尊重し、個別性に応じた安全で安楽な援助ができる。
4. 対象に必要なソーシャルサポートについて知ることができる。
5. 高齢者を支える看護チームの一員として、看護の専門性が理解できる。

内容

対象	内容		対象選定の目安	
	看護のポイント		症状	疾患
疾患を有し、加齢による機能低下が著しい高齢者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化のアセスメント 2. 日常生活援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 残存機能を活かした援助 2) 廃用を予防するための援助 3) 安全・安楽を守るための援助 4) 身体拘束のアセスメント 3. 生活リズムの確立のための援助 4. 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションとコミュニケーション障害への援助 5. 精神的な安定への援助 6. 患者・家族指導 7. 社会資源活用への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険サービス 		発熱 疼痛 痒痒 (かゆみ) 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感 呼吸困難 動悸 排泄機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 嚥下障害 高次脳機能障害 見当識障害 睡眠障害 老人性うつ ……など	認知症 悪性新生物 脳血管障害 神経難病 虚血性心疾患 高血圧症 肺炎 閉鎖性肺疾患 変形性関節症 骨粗鬆症 骨折 皮膚痒痒症 褥瘡 腎不全 白内障・緑内障 MRSA 感染症 尿路感染症 ……など

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
 - A ねらい:高齢者の特性を踏まえたコミュニケーションや様々な介護サービス施設での生活について理解する。
 - 1) 実習開始前に受ける。
 - 2) 『高齢者との対話』のDVD視聴
 - 3) 『高齢者の様々な生活環境』のDVD視聴
 - 4) 学んだこと、考えたことについてディスカッションを行う。
 - B ねらい:日常生活援助の演習を通して、実習に向けての看護のイメージ化を図る。
 - 1) 実習開始前に、実習グループごとに行う。
 - 2) 実習に臨むにあたり、高齢者の看護に必要な技術を実施する。
3. 病棟実習
 - 1) 病棟オリエンテーションを受ける。
 - 2) 対象選定の目安に該当している1名の高齢者(老年期の特徴を有する者、できれば75歳以上の後期高齢者)を受け持ち患者とする。
 - 3) 立案した看護計画に基づいて看護を実践する。
 - 4) テーマカンファレンスを開催する。
 - 5) 1場面について、プロセスレコードを記載する。
 - 6) 実習終了後は、看護のポイントを踏まえ「学んだことと今後の課題」について実習レポート用紙に記載する。

老年看護学実習Ⅰ評価表

実習病棟 階 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

項目	評定尺度	評定	
		評価	得点
1. 発達段階上の個別性が理解できる。	対象の個別的な身体・精神・社会的特徴と生活習慣・老いの現れ方が、発達段階上の特徴をふまえて述べられる。	A	5
	対象の個別的な身体・精神・社会的特徴と生活習慣・老いの現れ方が、発達段階上の特徴をふまえてほしい述べられる。	B	4
	対象の個別的な身体・精神・社会的特徴と生活習慣・老いの現れ方が、発達段階上の特徴をふまえて少しでも述べられる。	C	3
	対象の個別的な身体・精神・社会的特徴と生活習慣・老いの現れ方が述べられない。	D	0
2. 健康障害が理解できる。	対象の健康障害について病態生理・検査・治療などの事実を整理し、加齢変化・生活習慣と関連づけてほしい述べられる。	A	5
	対象の健康障害についてほしい病態生理・検査・治療などの事実を整理し、加齢変化・生活習慣と関連づけて少しでも述べられる。	B	4
	対象の健康障害について少しでも病態生理・検査・治療などの事実を整理し、加齢変化・生活習慣と関連づけて少しでも述べられる。	C	3
	対象の健康障害を病態生理・検査・治療などの事実を整理できず、加齢変化・生活習慣と関連づけて述べられない。	D	0
3. 対象の個性に合わせたコミュニケーションができる。	対象の加齢変化や疾患・障害の影響を踏まえたコミュニケーション技術が活用できる。	A	5
	対象の加齢変化や疾患・障害の影響を踏まえたコミュニケーション技術がほしい活用できる。	B	4
	対象の加齢変化や疾患・障害の影響を踏まえたコミュニケーション技術が少しでも活用できる。	C	2
	対象の加齢変化や疾患・障害の影響を踏まえたコミュニケーション技術が活用できない。	D	0
4. 健康障害が生活に及ぼす影響を理解できる。	対象の健康障害が現在の生活及び退院後の生活へ及ぼす影響がほしい述べられる。	A	5
	対象の健康障害が現在の生活に及ぼす影響がほしい記述でき、退院後の生活への影響が少しでも述べられる。	B	4
	対象の健康障害が現在の生活に及ぼす影響が少しでも述べられる。	C	2
	対象の健康障害が現在の生活に及ぼす影響が述べられない。	D	0
5. 対象を支える人々の存在や社会資源の必要性について理解できる。	対象を支える人々の存在や必要な社会資源が対象に及ぼす影響を述べられる。	A	5
	対象を支える人々の存在や必要な社会資源が対象に及ぼす影響をほしい述べられる。	B	4
	対象を支える人々の存在や必要な社会資源が対象に及ぼす影響を少しでも述べられる。	C	3
	対象を支える人々の存在や必要な社会資源が対象に及ぼす影響を述べられない。	D	0
6. 基本的欲求の充足・未充足の判別ができる。	情報を標準・平均・正常性・日常性と照合・比較し、充足・未充足を判別できる。	A	5
	情報を標準・平均・正常性・日常性とほしい照合・比較し、充足・未充足を判別できる。	B	4
	情報を標準・平均・正常性・日常性と少しでも照合・比較し、充足・未充足を判別できる。	C	3
	情報を標準・平均・正常性・日常性と照合・比較できず、充足・未充足を判別できない。	D	0
7. 基本的欲求の未充足の原因・誘因を、体力・意思・知識の側面から判断できる。	未充足の状況を「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」「基本的欲求を変容させる病理的状态」と関連付けて解釈し、原因・誘因を3側面から判断できる。	A	5
	未充足の状況を「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」「基本的欲求を変容させる病理的状态」と関連付けて解釈し、原因・誘因を3側面からほしい判断できる。	B	4
	未充足の状況を「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」「基本的欲求を変容させる病理的状态」と関連付けて解釈し、原因・誘因を3側面から少しでも判断できる。	C	3
	未充足の状況を「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」「基本的欲求を変容させる病理的状态」と関連付けて解釈することができず、原因・誘因を3側面から判断できない。	D	0
8. 分析した結果から、対象の全体像を捉えられる。	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できる。	A	5
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについてほしい整理できる。	B	4
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて少しでも整理できる。	C	2
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できない。	D	0
9. 望ましい姿が設定できる。	対象にとっての望ましい生活をとらえて述べられる。	A	5
	対象にとっての望ましい生活をほしいとらえて述べられる。	B	3
	対象にとっての望ましい生活を少しでもとらえて述べられる。	C	2
	対象にとっての望ましい生活をとらえて述べられない。	D	0
10. 看護上の問題を特定し表現できる。	原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	A	4
	ほしい原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	B	3
	少しでも原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	C	2
	原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられない。	D	0

項目	評定尺度	評定	
11. 期待される結果とその時期が設定できる。	期待される結果とその時期が、RUMBA の法則を活用して述べられる。	A	4
	期待される結果とその時期が、RUMBA の法則を活用しているが、やや抽象的に述べられる。	B	3
	期待される結果とその時期が、RUMBA の法則を活用せずに述べられる。	C	2
	期待される結果が看護問題と一致していず、時期も述べられない。	D	0
12. 対象の状態を考慮した解決策が記述できる。	対象の状態を考慮して 5W1H で解決策を述べられる。	A	4
	対象の状態を考慮した解決策をだいたい述べられる。	B	3
	少しでも対象の状態を考慮して解決策を述べられる。	C	2
	対象の状態を考慮した解決策が述べられない。	D	0
13. 計画に基づいた援助が実施できる。	計画に基づいて実施できる。	A	4
	だいたい計画に基づいて実施できる。	B	3
	少しでも計画に基づいて実施できる。	C	2
	計画に基づいた援助が実施できない。	D	0
14. 安全・安楽を考慮した援助が実施できる。	対象の状態や意向に合わせた援助が、安全・安楽に実施できる。	A	5
	対象の状態や意向に合わせた援助が、だいたい安全・安楽に実施できる。	B	4
	対象の状態や意向に合わせた援助が、少しでも安全・安楽に実施できる。	C	3
	対象の状態や意向に合わせた援助が、安全・安楽に実施できない。	D	0
15. 計画に基づいて実施した援助を評価できる。	援助行為の結果と期待される結果を関連付けて評価し、解決策をだいたい修正できる。	A	4
	援助行為の結果と期待される結果を関連付けてだいたい評価し、解決策をだいたい修正できる。	B	3
	援助行為の結果と期待される結果を関連付けてだいたい評価し、解決策を少しでも修正できる。	C	2
	援助行為の結果と期待される結果を評価できない。	D	0
		合計	70

《態度》

項目	評価のポイント	A	B	C	D		
1. 熟考性	・疑問、関心、興味あるものについて、文献を活用して学習できる。 ・日々学んだことや、問題点、疑問が放置されることなく学習され、実習に活かされている。	5	3	2	0		
2. 積極性	・課題達成、よりよい看護に向けて、積極的に学習し、主体的に行動できる。 ・カンファレンスのテーマに沿って、積極的な発言ができる。 ・自分の意見を述べるができる。 ・技術習得に向けて、評価を受けている。	5	3	2	0		
3. 責任性	・看護師、他の医療従事者、教員に正確に連絡・報告・相談できる。 ・時間や決まりごとを守ることができる。(記録物の形式、欠席・欠課の対応、提出物など) ・健康管理ができる。 ・援助や実技練習の際は、準備から後片付けまで責任もって行える。	5	3	2	0		
4. 協調性	・グループ内での協調的メンバーシップが取れる。 ・他者の意見を傾聴できる。	5	3	2	0		
5. 確実性	・行動計画の内容が適切であり、状況に応じて変更し、実習時間を意識しながら行動できる。 ・看護師、他の医療従事者、教員と調整、確認しながら実習できる。	5	3	2	0		
6. 誠実性	・誰に対しても言葉遣いは丁寧で、尊重した態度で接することができる。 ・看護を誠実に行える。 ・助言・指導を受け入れ、納得したうえで行動できる。	5	3	2	0	合計	30

<評定尺度>

A:よくできた B:できた C:少しできた D:できなかった

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

総合点	
-----	--

老年看護学実習Ⅱ

目的

様々な健康レベルにある高齢者と高齢者を支える人々について理解し、QOL の維持・向上を目指した看護の実際を学ぶ。

目標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的側面と、生活史や加齢変化および健康の段階から統合的に理解できる。
2. 対象の健康レベルやその人にとっての望ましい生活について理解し、個別性を考慮した安全安楽な援助ができる。
3. 対象とその家族に対し、長期的な視点で健康の保持・増進に向けた援助ができる。
4. 対象の生活に必要な社会資源の活用や多職種連携について理解できる。
5. 多職種と協働しながら看護チームの一員として行動できる。

内容

内容		対象選定の目安	
対象	学習・看護のポイント	症状	疾患
慢性に経過する疾患を有する高齢者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険予測のアセスメントと看護 (転倒転落・誤嚥・誤食・窒息・外傷・褥瘡・自己抜去等) 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 1) 廃用症候群 2) 脱水症 3) 摂食・嚥下障害・誤嚥性肺炎 4) 低栄養 5) 掻痒症 6) 尿失禁 7) 便秘・下痢 8) 睡眠障害 9) 視覚・聴覚障害 10) 骨粗鬆症 11) せん妄 12) 認知症 3. 高齢者の終末期の看護 1) 死へのプロセスと意思決定支援 2) 終末期における家族への看護 4. 高齢者を介護する家族への看護 1) 家族アセスメント 2) 老老介護・認認介護 5. 高齢者の尊厳と権利擁護 1) 身体拘束の禁止 2) ノーマライゼーション 6. 社会資源のしくみと活用 7. 多職種との連携と退院支援の役割 1) 介護支援専門員・退院支援看護師 	発熱 疼痛 瘙痒 (かゆみ) 脱水 嘔吐 浮腫 倦怠感 動悸 呼吸困難 排泄機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 嚥下障害 高次脳機能障害 見当識障害 睡眠障害 老人性うつ ……など	虚血性心疾患 肺炎 脳梗塞 脳腫瘍 くも膜下出血 脳内出血 前立腺癌 膀胱癌 腎癌 喉頭癌 咽頭癌 パーキンソン病 脊髄小脳変性症 認知症 大腿骨頸部骨折 変形性股関節症 変形性膝関節症 腰椎圧迫骨折 ……など

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
 - A ねらい：老年期の特徴を踏まえた看護過程を実践し準備性を高める。
 - 1) 実習開始前に行う。
 - 2) 老年期の事例を用いて看護過程を展開する。
 - 3) 『認知症高齢者への関わり』についての DVD 視聴
 - 4) 膀胱留置カテーテル挿入・管理の演習
 - 5) 学んだこと、考えたことについてのディスカッションを行う。
 - B ねらい：危険予知・回避の姿勢を身に付け、高齢者患者の体験や日常生活援助の演習を通して老年看護の特性を理解することができる。
 - 1) 実習開始前に実習グループごとに行う。
 - 2) 『認知症高齢者の看護』の DVD を視聴する。
 - 3) 危険予知トレーニングを行う。
 - 4) 実習に臨むにあたり、高齢者の看護に必要な技術を実施する。
3. 病棟実習
 - 1) オリエンテーションを受ける。
 - 2) 対象選定の目安に該当している 1 名の高齢者(老年期の特徴を有する者)を受け持ち患者とする。該当する高齢者がいない場合は、慢性に経過する疾患を有する成人を受け持ち患者とする。
 - 3) 立案した看護計画に基づいて看護を実践する。
 - 4) 実習終了後は、自己の実習体験を振り返って「医療現場における高齢者の現状と看護の役割」について実習レポート用紙に記載する。

老年看護学実習Ⅱ評価表

実習病棟 階 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

項目	評価尺度	評定	
1. 発達段階上の個別性が理解できる。	対象の身体・精神・社会的特徴と、生活習慣・加齢変化の特徴・生活史から個別性を述べられる。	A	5
	対象の身体・精神・社会的特徴と、生活習慣・加齢変化の特徴・生活史から個別性をだいたい述べられる。	B	4
	対象の身体・精神・社会的特徴と、生活習慣・加齢変化の特徴・生活史から個別性が少しでも述べられる。	C	2
	対象の身体・精神・社会的特徴と、生活習慣・加齢変化の特徴・生活史から個別性が述べられない。	D	0
2. 慢性に経過する健康障害が理解できる。	健康障害を病態生理・検査・治療などの事実を整理し、加齢変化・生活習慣と関連付けて述べられる。	A	5
	健康障害を病態生理・検査・治療などの事実を整理し、加齢変化・生活習慣と関連付けてだいたい述べられる。	B	4
	健康障害を病態生理・検査・治療などの事実をだいたい整理し、加齢変化・生活習慣と関連付けて少しでも述べられる。	C	3
	健康障害を病態生理・検査・治療などの事実を整理できず、加齢変化・生活習慣と関連付けて述べられない。	D	0
3. 健康障害が生活に及ぼす影響を理解できる。	健康障害が生活に及ぼす現時点での影響・長期的な視点での影響が述べられる。	A	5
	健康障害が生活に及ぼす現時点の影響・長期的な視点での影響がだいたい述べられる。	B	4
	健康障害が生活に及ぼす現時点の影響がだいたい記述でき、長期的な視点での影響が少しでも述べられる。	C	2
	健康障害が生活に及ぼす現時点での影響が述べられない。	D	0
4. 対象や対象を支える人々と信頼関係が確立できる。	対象や対象を支える人々の状況（聴力、失語、理解度）に応じた関わりができ、思いや気持ち、今後の生活への希望について述べられる。	A	5
	対象や対象を支える人々の状況（聴力、失語、理解度）に応じた関わりができ、思いや気持ち、今後の生活への希望についてだいたい述べられる。	B	3
	対象や対象を支える人々の状況（聴力、失語、理解度）に応じた関わりがだいたいでき、思いや気持ち、今後の生活への希望について少しでも述べられる。	C	2
	対象や対象を支える人々の状況（聴力、失語、理解度）に応じた関わりができず、思いや気持ち、今後の生活への希望について述べられない。	D	0
5. 対象を支える人々の存在や社会資源の活用について理解できる。	対象を支える人々の存在や社会資源について、対象の生活に必要な支援内容について述べられる。	A	5
	対象を支える人々の存在や社会資源について、対象の生活に必要な支援内容についてだいたい述べられる。	B	4
	対象を支える人々の存在や社会資源について、対象の生活に必要な支援内容について少しでも述べられる。	C	3
	対象を支える人々の存在や社会資源について、対象の生活に必要な支援内容が述べられない。	D	0
6. 対象または対象を支える人々に対し、健康障害の問題解決に向けた援助が実施できる。	対象または対象を支える人々の主体的な意思決定を尊重しながら、共に問題解決に向けた援助が実施できる。	A	5
	対象または対象を支える人々の主体的な意思決定を尊重しながら、共に問題解決に向けた援助がだいたい実施できる。	B	4
	対象または対象を支える人々の主体的な意思決定を尊重しながら、共に問題解決に向けた援助が少しでも実施できる。	C	2
	対象または対象を支える人々の主体的な意思決定を尊重できず、共に問題解決に向けた援助が実施できない。	D	0
7. 対象に応じた日常生活援助が実施できる。	対象の危険性を予測した日常生活援助が安全・安楽に実施できる。	A	5
	対象の危険性を予測した日常生活援助がだいたい安全・安楽に実施できる。	B	3
	対象の危険性を予測した日常生活援助が少しでも安全・安楽に実施できる。	C	2
	対象の危険性を予測した日常生活援助が安全・安楽に実施できない。	D	0
8. 分析した結果から、対象の全体像を捉えられる。	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できる。	A	5
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについてだいたい整理できる。	B	4
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて少しでも整理できる。	C	3
	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できない。	D	0
9. 望ましい姿が設定できる。	対象にとっての生きがい（生きることの意味、生きる支え、目標）を踏まえ、望ましい生活を捉えて述べられる。	A	5
	対象にとっての生きがい（生きることの意味、生きる支え、目標）を踏まえ、望ましい生活をだいたい捉えて述べられる。	B	4
	対象にとっての生きがい（生きることの意味、生きる支え、目標）を踏まえ、望ましい生活を少しでも捉えて述べられる。	C	2
	対象にとっての生きがい（生きることの意味、生きる支え、目標）を踏まえ、望ましい生活を捉えて述べられない。	D	0

項目	評価尺度	評定	
10. 看護上の問題を特定し表現できる。	原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	A	5
	だいたい原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	B	4
	少しでも原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられる。	C	3
	原因・誘因を明らかにした看護上の問題を述べられない。	D	0
11. 看護計画の立案ができる。	対象の生活習慣・価値観・残存機能を活かした看護計画が立案できる。	A	5
	対象の生活習慣・価値観・残存機能を活かした看護計画がだいたい立案できる。	B	4
	対象の生活習慣・価値観・残存機能を活かした看護計画が少し立案できる。	C	3
	対象の生活習慣・価値観・残存機能を活かした看護計画が立案できない。	D	0
12. 計画に基づいた援助が実施できる。	計画に基づいて実施できる。	A	5
	だいたい計画に基づいて実施できる。	B	4
	少しでも計画に基づいて実施できる。	C	2
	計画に基づいた援助が実施できない。	D	0
13. 計画に基づいて実施した援助を評価・修正できる。	援助行為の結果と期待される結果を関連付けて評価し、解決策を修正できる。	A	5
	援助行為の結果と期待される結果を関連付けてだいたい評価し、解決策をだいたい修正できる。	B	4
	援助行為の結果と期待される結果をだいたい関連付けて評価し、解決策を少しでも修正できる。	C	3
	援助行為の結果と期待される結果を関連付けて評価できない。	D	0
14. 医療現場における高齢者の現状と看護の役割について考えることができる。	医療現場における高齢者の現状と看護の役割について自己の考えが述べられる。	A	5
	医療現場における高齢者の現状と看護の役割について自己の考えがだいたい述べられる。	B	4
	医療現場における高齢者の現状と看護の役割について自己の考えが少しでも述べられる。	C	3
	医療現場における高齢者の現状と看護の役割について自己の考えが述べられない。	D	0
		合計	70

《態度》

項目	評価のポイント	A	B	C	D		
1. 熟考性	・疑問、関心、興味あるものについて、文献を活用して学習できる。 ・日々学んだことや、問題点、疑問が放置されることなく学習され、実習に活かされている。	5	3	2	0		
2. 積極性	・課題達成、よりよい看護に向けて、積極的に学習し、主体的に行動できる。 ・カンファレンスのテーマに沿って、積極的な発言ができる。 ・自分の意見を述べるができる。 ・技術習得に向けて、評価を受けている。	5	3	2	0		
3. 責任性	・看護師、他の医療従事者、教員に正確に連絡・報告・相談できる。 ・時間や決まりごとを守ることができる。(記録物の形式、欠席・欠課の対応、提出物など) ・健康管理ができる。 ・援助や実技練習の際は、準備から後片付けまで責任もって行える。	5	3	2	0		
4. 協調性	・グループ内での協動的メンバーシップが取れる。 ・他者の意見を傾聴できる。	5	3	2	0		
5. 確実性	・行動計画の内容が適切であり、状況に応じて変更し、実習時間を意識しながら行動できる。 ・看護師、他の医療従事者、教員と調整、確認しながら実習できる。	5	3	2	0		
6. 誠実性	・誰に対しても言葉遣いは丁寧で、尊重した態度で接することができる。 ・看護を誠実に行える。 ・助言・指導を受け入れ、納得したうえで行動できる。	5	3	2	0	合計	／30

<評定尺度>

A:よくできた B:できた C:少しできた D:できなかった

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

総合点	
-----	--